

令和3年度十和田市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

十和田市は、青森県の南東部中央に位置し、奥入瀬川及び人工河川の稲生川など多くの河川に囲まれた自然豊かな環境において、水稻栽培が広く行われているほか、土地利用型作物としては小麦、大豆及びそばのほか地域振興作物としてにんにく、ねぎ、ごぼう及びながいも等野菜の作付が広く行われており、県内でも有数の農業地帯となっている。

また、畜産農家の戸数が197戸で県内の24%を占めており、畜産が盛んな地域であることから飼料作物の作付も広く行われている。

今後、高齢化や農業後継者不足により、耕作放棄地が増加することが懸念されることから、担い手の育成及び集落営農の組織づくり等受け皿の確保を図り、担い手に農地の集積・集約を推進することが急務となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

十和田市では、既に産地ブランド化されたにんにく、ねぎ、ごぼう、ながいもの主力作物を中心に、高収益作物による農業者の所得向上に向けた取組をしている。

また、十和田おいらせ農協において、「TOM-VEGE（トム・ベジ）」（十和田おいらせミネラル野菜）の生産を推進しているため、地域の実状に応じ、収益性向上に向け作付転換を促す取組をしていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

十和田市は、農業者の高齢化に伴い、担い手・労働者の確保が課題となっている集落がある。そのため、将来的に耕作放棄地にならないよう、地域ごとに水田の利用状況を点検し、生産者が管理できなくなった水田については、中間管理機構の事業に組み入れるなどの取組を推進する。

また、水稻を組み入れない作付体系が数年以上定着し、畑作物のみを生産し続けている水田や今後も水稻が作付される見込みがない水田については、畑地化支援の活用を促していき、令和3年度より毎年3ha程度の畑地化を目標としていく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

栽培管理の徹底、農業用ドローンを活用したスマート農業の新技术の推進により、安定良質米生産へ取り組む。

また、主食用米の需要が減少しているため、後述のとおり非主食用米への転換を図る。

(2) 備蓄米

集荷団体と密接に連携を取りながら一定の面積の確保を図る。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、農業者が蓄積してきた栽培技術や既存農業機械を活用できる飼料用米の生産拡大を図る。飼料用米の本作化や生産拡大にあたっては、産地交付金の県設定枠を活用し、多収品種の導入を図るとともに、省力化と生産コスト低減を促進するため、産地交付金の市設定枠による直播等の生産性向上技術の導入を推奨するとともに、地域一帯の農産物への病虫害防除の徹底を図る。

また、産地交付金の市設定枠により、耕畜連携の取組を支援し、実需者との連携を取りながら取組面積の拡大を図る。

イ 米粉用米

市内集荷業者が取り扱っているため、需要動向を注視し振興を図る。

ウ 新市場開拓用米

流通状況を注視し、関係機関と連携を取りながら県設定枠の産地交付金の活用により、推進を図る。

エ WCS 用稲

市設定枠の産地交付金の活用により、実需者との結びつきを強化し、耕畜連携の取組を推進するとともに需要に応じた生産を図る。

オ 加工用米

実需者の需要が多く、安定した供給体制の構築が求められることから、産地交付金の市設定枠を活用して直播栽培等による省力化と生産コスト低減の生産を推奨し、集荷団体と連携を取りながら作付面積の維持拡大を図る。

(4) 麦、大豆、飼料作物

ア 麦、大豆

麦と大豆は、病虫害等の被害により品質及び収量の低下が見られることから、産地交付金の市設定枠により、品質と収量の向上を図るとともに省力化による所得向上を推進する。

イ 飼料作物

飼料作物に関しては、市内では畜産が盛んであり、飼料作物の需要があることから、産地交付金の市設定枠により耕畜連携の取組を支援し、実需者と連携を取りながら作付面積の拡大を図る。

(5) そば、なたね

産地交付金の県設定枠による支援を活用し、排水対策の徹底と適切な肥培管理により、生産性の向上と品質向上を図る。

(6) 高収益作物

ア 野菜

良質な野菜の安定的な生産を図るために市設定枠の産地交付金による支援で振興を図る。特に、重点作物のにんにく、ねぎ、ごぼう及びながいもは産地ブランド化された市の主力作物であるため、市の土壌診断の費用助成事業を活用した適切な肥培管理の実施を推奨し、品質向上による評価を高めるため産地交付金による支援を行い、一層の産地化を目指す。また、きゅうりやだいこん等は重点作物に次ぐ高収益作物であり、集荷業者と連携して作付面積の拡大を図る。

イ その他（葉たばこ、小豆）

葉たばこや小豆は、水稲からの転換を目指す高収益作物として、市設定枠の産地交付金による支援で振興を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度作付面積等 (ha)	当年度の作付予定面積等 (ha)	令和5年度の作付目標面積等 (ha)
主食用米	3333.7	3174.0	3100.0
備蓄米	217.7	180.0	180.0
飼料用米	392.4	550.0	560.0
米粉用米	2.0	2.5	2.5
新市場開拓用米	3.5	4.0	5.0
WCS用稲	263.9	274.0	280.0
加工用米	16.3	17.0	19.0
麦	125.6	127.0	130.0
大豆	312.0	318.0	325.0
飼料作物	1298.6	1300.0	1310.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0
そば	210.9	217.0	225.0
なたね	1.8	2.0	2.0
高収益作物	970.4	973.5	982.5
野菜			
・重点振興作物	863.6	865.5	870.0
・振興作物1	48.0	48.0	50.0
・振興作物2	37.8	38.0	40.0
花き・花木			
果樹			
その他の高収益作物			
・振興作物1	17.0	18.0	18.5
・振興作物2	4.0	4.0	4.0
その他	0.0	0.0	0.0
畑地化	0.0	3.0	3.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	飼料用米（多収 品種及び一般 品種）	飼料用米生産性向 上への取組助成	病虫害防除の実施割合	（令和2年度）52%	（令和5年度）80%
			取組面積	（令和2年度）204.3ha	（令和5年度）450.0ha
2	飼料用米（飼料 用米生産ほ場 の稲わら）	稲わら利用助成 （耕畜連携）	取組面積	（令和2年度）287.4ha	（令和5年度）450.0ha
			稲わら利用の実施割合	（令和2年度）73%	（令和5年度）80%
3	加工用米	加工用米省力化 への取組助成	取組面積	（令和2年度）12.4ha	（令和5年度）15.0ha
			10aあたりの労働時間	（令和2年度）29.3時間	（令和5年度）29.0時間
4	小麦	小麦及び大豆省 力化への取組助 成	取組面積	（令和2年度）80.0ha	（令和5年度）105.0ha
			10aあたりの労働時間	（令和2年度）3.1時間	（令和5年度）2.8時間
	大豆		取組面積	（令和2年度）220.0ha	（令和5年度）260.0ha
			10aあたりの労働時間	（令和2年度）3.2時間	（令和5年度）2.9時間
5	飼料作物 WCS用稲	資源循環助成 （耕畜連携）	取組面積	（令和2年度）388.0ha	（令和5年度）420.0ha
			飼料作物の実施割合	（令和2年度）15%	（令和5年度）16%
			WCS用稲の実施割合	（令和2年度）73%	（令和5年度）75%
6	飼料作物	水田放牧助成 （耕畜連携）	取組面積	（令和2年度）15.1ha	（令和5年度）20.0ha
			水田放牧の実施割合	（令和2年度）1.1%	（令和5年度）1.5%
7	重点振興作物 （にんにく、 ねぎ、ながい も、ごぼう）	重点振興作物 助成	作付面積	（令和2年度）854.1ha	（令和5年度）870.0ha
8	振興作物1	振興作物助成	作付面積 振興作物1 振興作物2	（令和2年度）63.7ha	（令和5年度）65.0ha
	振興作物2			（令和2年度）40.5ha	（令和5年度）42.0ha